



この超高齢社会の中で、病気などにより食べる機能が低下し安定した食事がとれない方も少なくありません。口から食べることが難しくなって来た方は食べるこの他にも社会生活にも支障をきたしていることがほとんどです。そして、他にも様々な身体の不具合に対して薬を使う方も多くなっていることは皆さんも想像しやすいと思います。その薬が狙った効果を出すためには、薬自体をしっかりと飲むこと、また飲むことによって不具合が出ていないことが重要となります。

十分に食べられない状況が続くと、栄養状態や代謝機能が低下することにより薬の適切な量も変わってくるため、効きすぎなどの副作用により悪影響がでることもあります。生活の質を下げないためにも定期的に確認をしていくことは大切なことと考えています。

また薬は時として命を守るために本人の意思と無関係に投与されることもあります。口から飲む以外の投与ではご自身の意思に反し、副作用なリスクも大きくなる場合があります。薬の選択から量や投与方法まで慎重に検討するということが、医療を行う者の責任も大きなものとなります。それが薬なのです。私は薬剤師ですが、その薬が、その方にとって適切なのかどうかを見ています。

(薬剤師 齊藤 直裕)

笑顔の中の気付き

② 諦めない気持ちを教えてくれた気遣いさん

Tさんの口癖は「ありがとう」「お世話になってます」・・・スタッフへの気遣いをいつも忘れていませんでした。

そのTさんが体調を崩して入院され、退院後、施設に戻ってきたときには看取りの状態でした。病院では「食べられません」と言われても、私は何とか口から食べて欲しいと考え、試行錯誤した結果、高栄養のゼリーをアイスにすると召し上がって下さったので、毎日そのアイスを提供しました。

しかし、それでも摂取量は極めて少なく、発語も殆どありませんでした。毎日冷たいものばかり食べて寒いかな？本人の旅立ちが早いのかもしれないとも思いました。私に出来る事は何か考えました。季節はお正月の頃、Tさんのお部屋にお祝いのお花を飾ったところ、本人は眼を開け、私に「きれいねー」と、はっきり言ってくれました。その後、私は諦めない事を決意し、再びいろんな食材を試してみる事にしました。

羊羹やソフト食、苺、そしておにぎりと、少しずつ食べられるものが増え、数か月後には入院前と変わらぬ笑顔で「お世話になってます」と微笑んで下さいました。こちらこそ、ありがとう！Tさんの笑顔から諦めない気持ちを学んだのでした。

(管理栄養士 稲山 未来)

訪問看護の実際

～皆で守る新宿区～

訪問看護ステーションやごころ

飯塚 千晶

最期を自宅で迎えたいと思っている人は 54.6%(平成 24 年内閣府調査)という数字が出ているものの、実際は、75.9%の方が病院で最期を迎えています。何故、このような結果が生じているのでしょうか？

病院の医師は「体調が良くなったら自宅へ帰りましょう」と気軽に言葉にしていますが、体調が良くなるのを待っている結果、退院時期を逃してしまうのが現実としてあり、そうかと言って、医師から「何かあれば病院に戻ってきてくださいね」という言葉もよく聞かれ、実際に、緊急時や自宅での不安が強くなると救急車を呼んで病院に搬送されることも少なくありません。病院は治す医療を提供する場、そして、在宅は生活を支えるための医療(病院とは違い、できることが限られている)で、その違いを患者や家族が理解した上で方向性を決めていく必要があるのです。

さて、訪問看護は、地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まで全ての年代の方に、関係職種と協力しながら、在宅療養生



活に必要な支援や医療的ケアを提供しています。訪問看護も口腔ケアを行っています。

1996 年、米山氏による「口腔ケアと誤嚥性肺炎の予防」という論文が発表されました。実際、2016 年の人口動態調査において、肺炎で亡くなった 96%が 65 歳以上という結果が出ていて、在宅現場では、誤嚥性肺炎で入退院を繰り返していることを目の当たりにすることが多いのも事実です。

私が看護学校へ入学後、必ず熟読しなければならない本がありました。それは「看護の基本となるもの」という昔からある本で、その中に「歯を磨くこともごく簡単なことであると多くの人は思っているが(実際には口腔衛生について十分知っている人はほとんどいない)、意識を失っている人の口腔を清潔に保つのは非常に難しく、また危険な仕事であり、よほど熟練した看護婦でないとは有効にしかも安全に実施できないのです。実際、患者の口腔内の状態は看護ケアの質を最もよく表すもののひとつである」という一文があります。口腔ケアは、昔から重要視されていたことがわかります。しかし、現在、口腔ケアを重視して行なっている看護師はどの程度いるのでしょうか？



要介護高齢者の死亡数の割合は、30%が肺炎というデータがあります。しかし、誤嚥性肺炎は予防できる病気で、介護者による口腔ケアがとても重要となります。

介護度の高い患者ほど口腔ケアの優先順位は低くなる傾向があり、ケアマネジャーを含めた介護職もきちんと口腔ケアの知識を持つことが大切です。みんなの意識改革で誤嚥性肺炎は予防することができます。そして、誤嚥性肺炎による入院を減らしていくことができるはずなのです。

疾患別Point!

- 認知症 → 症状を理解する
- 脳血管疾患 → 自立には限界がある
- 神経難病 → 自立できない
- がん → 疼痛管理を優先
- 廃用症候群 → 予防が大切

